

I. 実践園・実践活動の概要

・実践園の概要(園児数・特徴 など)

本園は、和歌山市の南東部に位置し、校区内に広い道路が南北、東西に貫いており、紀勢本線も通っている。化学工場群に隣接した住宅密集地、農地を転用した新興住宅地、郊外型の大型スーパー等も複数あり、急速に田畑や空き地が減少し、都市化及び交通量が増大している地域である。本園では、子どもたちが心身ともに健やかに成長することを念頭に、のびのび保育を実践している。

実践園	対象園児数(H19年度)								実践園の特徴		
	3歳児		4歳児		5歳児		計		定員	保育時間(平日)	国公私立
	男	女	男	女	男	女	男	女			
宮前幼稚園	17	13	21	21	32	24	70	58	150	5時間	公立

※6歳児は5歳児に含む

・実践活動の概要

<実践活動の目的>

- 実践テーマ 「幼児の体力向上プログラム開発」
—幼稚園・家庭で育てよう「元気な宮前っ子」—

●ねらい・趣旨

幼児期に正しい生活習慣を身に付けることは、一生涯の健康維持増進にも繋がる。特に、食習慣や運動習慣の定着は重要であるが、園内保育だけでは困難であるのが現状である。そこで園内保育では、幼児に必要な走跳投などの体力向上及び正しい運動習慣を身に付けることを目的とし、様々な運動遊びの実践と環境設定を含めた「しかけ」を行う。それによって、体力向上をはじめ子どもたち自身が自分の体に気づき、体を動かすことの楽しさを感じさせる。また、幼児にとって望ましい運動習慣、食習慣の定着は保護者の理解・協力が必要であるとし、様々な取組をリアルタイムで保護者に示す工夫、保護者自身の「健康」への意識を高め、子どもの食習慣や運動習慣の必要性を理解するよう参加型のイベント計画を立案し実践した。

II. 効果のあった実践活動の狙いとポイント

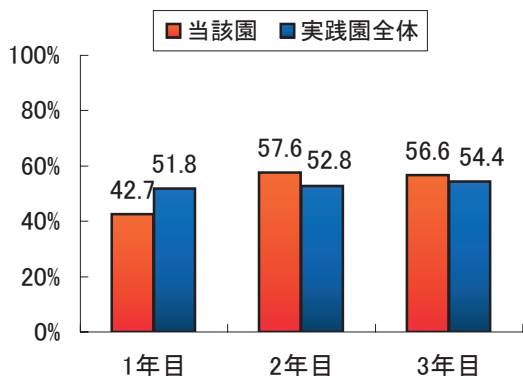
実施プログラム名	おひさまタイム	わくわくランド
趣旨・目的	朝一番から体を動かすことで、体を目覚めさせ、一日を活動的に過ごすことを目的とする。また、全園児の遊び時間が増加し、体力の向上を目指す。	のびのびと元気いっぱい体を動かすことをねらいとする。特に、隣接する小学校の施設を有効活用しダイナミックな身体活動をする。
対象者	全園児	全園児
実施内容及び方法	○園児全員でリズムダンスやリトミック体操を行う。 ○自分のめあてにそって、固定遊具や器具に挑戦する。	○毎週水曜日、小学校の広い体育館や運動場、幼稚園にない器具等を使って活動する。 ○小学生児童と一緒に遊ぶ機会を設け、ダンスやゲーム遊び等を通して、挑戦したりお互い刺激し合ったりしながら交流を楽しむ。
期待される効果	○全体で集い体を動かすことによって、運動しようとする意欲が生まれる。 ○登園時に行うことによって基本的な生活習慣の確立と保護者の意識付けとなる。	○広い施設を使うことによって、ダイナミックな動きを楽しむようになる。 ○小学校児童との交流によって刺激を受け、活動への意欲付けとなるとともに、学校へのスムーズな移行へつなげていく。
検証方法	生活実態調査、体力・運動能力測定	生活実態調査、体力・運動能力測定

III. 実践活動の成果

保護者の変化をみると、子どもが体を動かす遊び等をする様子を見たときに「毎日」ほめる比率が1年目の42.7%から3年目では56.6%に増えた。かつ、子どもから話し掛けてきたときに「毎日」一生懸命聞く比率が、1年目56.0%、2年目62.2%、3年目70.3%と増加した。自由な体を動かす遊びをしているときの子どもの変化をみると、「戸外で遊ぶほうが多い」と回答した比率が1年目の半数未満から3年目には75%強に増加した。「非常に楽しそうだった」幼児の比率も1年目の49.5%から3年目には63.1%と増加した。体を活発に動かす遊びを「非常によくする」比率も1年目の33.3%から3年目には53.3%と伸びた。

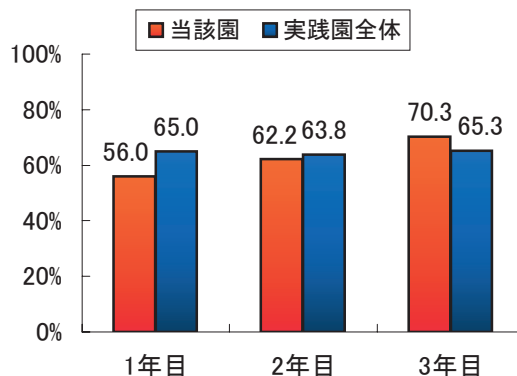
問41. 態度(1)お子様が体を動かす遊びや運動・スポーツをする様子をあなたが見た時には、ほめてあげる

◆「毎日」の比率



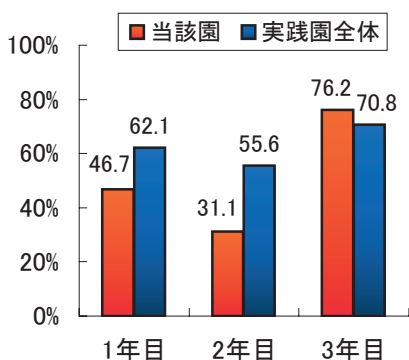
問41. 態度(2)お子様が自分の体を動かす遊びや運動・スポーツをする様子について話し掛けてきたりしたときにはいっしょうけんめい聞く

◆「毎日」の比率



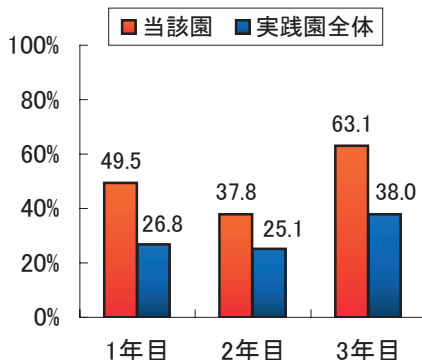
問2. 自由な遊びのとき、室内での遊びと戸外での遊びとどちらが多いですか。

◆「戸外が多い計」の比率



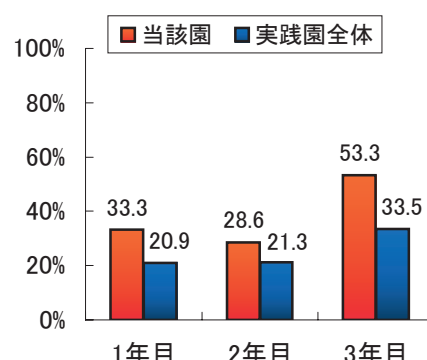
問3. 自由な体を動かす遊びをしているとき、楽しそうですか。

◆「非常に楽しそうだった」の比率



問1. 自由な遊びのとき、活発に体を動かす遊びをどのくらいしていますか。

◆「非常によくする」の比率



保護者コメント

「おひさまタイム」で朝から活動することになり、朝ご飯を食べさせなくてはならないと強く思うようになった。また、小学校の施設を使った活動、特に、小学校の子どもたちとの交流を実施したので、交流の楽しさに加え、小学校入学を楽しみにし、スムーズな気持ちの移行ができたように感じる。



実践園
担当者コメント

「おひさまタイム」を導入することで、子どもたちの活動への意欲付けができた。また、保護者から、子どもから園での活動の様子やできばえの話を聞いたり、放課後の園庭開放の中で活動を実際にみたりすることで、子どもの体力向上への関心が高まった。



高等教育機関
担当者コメント

本プログラムの「おひさまタイム」では、朝一番に毎日実践したことから、保護者がいつでも見学できたことが最もよかった。これを機に保護者同士の関わりが増え、健康への意識も大きく変わった。子どもたちのとても楽しそうな笑顔を目の当たりにすることで、子どもの声に耳を傾けるようになった。また、朝、園全体で集うことで、遅刻がなくなり、朝食を食べてくる子どもが多くなった。これは、保護者の意識が変容したからであり、効果的なプログラムであった。ただし、家族構成や環境の違いに配慮して園側は保護者への対応を丁寧に行うことや情報を共有できるようにする必要がある。(連携機関: プール学院大学国際文化学部)

I. 導入計画の立案

・実施計画・目的

- 毎週3～4日、朝9時から10時まで園庭を開放する。(おひさまタイム)
- 幼児が自由に遊ぶ姿を保護者が見学できるようにする。
- 家庭の中でおひさまタイムについての会話が生まれ、保護者の幼児期の体力への関心が高まる。
- 早朝から活動するため、幼児が早起きになり、また朝ご飯をしっかり食べてくるようになる。

・準備作業(※必要な設備・資材・作業人員・作業期間 等)

必要な設備	園庭の固定遊具、器具 等 (園にある器具備品を有効活用する)
必要な資材	ボール なわ 缶ぽっくり 等 (園にある器具備品を有効活用する)
必要な作業人数	教員(活動実施時:園庭の安全管理に必要な人数、企画設計時:2名)
作業期間	3ヶ月(計画立案から実施まで)

・全体的なスケジュール(※おおまかなスケジュール)

- 3月 おひさまタイムの実施計画の検討
- 4月 活動内容・年間計画の検討、実施
- 6月 早朝園庭開放開始
- 6月 おひさまタイムの活動の様子を写真などビジュアル的に随時掲示

II. 導入手順

ステップ1: おひさまタイム活動内容・年間計画の検討

定期的にとどの時期に、どの学年にどんな遊びを導入していくのかの計画を立てる。

活動計画の例

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
	ダンス・体操										
チャレンジタイム	3歳	ブランコ すべりだい ネットのぼり	ジャングルジム ちからいっぱい走る		ロープのぼり かけっこ なわあそび	つりわにぶらさがる ネットのぼり ボールあそび		フープ		なわあそび サーキットあそび ボールあそび	マラソン
	4歳	ブランコ すべりだい ネットのぼり	うんてい てつぼう かけっこ	ラダー ハンプリング ジャンプ		かけっこ てつぼう ラダー	のぼりぼう うんてい フープ	ボール なわとび ポックリ		なわとび マラソン	サーキット
	5歳	フープ うんてい てつぼう	なわとび ラダー かけっこ	のぼりぼう ながなわ		なわとび・ながなわ うんてい フープ	ながなわ くるくるスキップ のぼりぼう	てつぼう ラダー ボール		なわとび・ながなわ サーキット フープ	マラソン

II. 導入手順(つづき)

ステップ2: 保護者への声かけ

送迎の時に、日頃の様子に加え、おひさまタイムの時に熱中している様子や、だれと一緒に遊んでいるのか、どれくらいできるようになってきたのか等、保護者へ子どもの活動の様子を伝える。

ステップ3: 園庭の環境づくり

放課後に、おひさまタイムでおこなった活動を自由に行えるように、また、保護者が自由に見学できるように配慮する。同時に、器具や道具等自由に使えるように環境設定をする。

ステップ4: 早朝園庭開放の実施

教員は場の設定だけで、子どもと保護者の対話、活動の場所や時間とする。

ステップ5: 子どもの成長を話し合う

園庭開放の中で発見した子どもの成長や伸びを、送迎の時やお手紙の中で知らせる。

ステップ6: 次回の準備

園内にある器具备品を整理確認し、アイデアを出すための準備を放課後に行う。



III. 導入にあたっての留意点(※プログラム実施上のコツ・注意点・リスク管理 等)

留意点

- おひさまタイムの活動の様子を自由に見学できるよう配慮し声かけをする。
- おひさまタイムの活動の様子の写真をリアルタイムで毎朝掲示板で知らせる。
(できるだけ幼児全員の笑顔が写真に写るよう配慮する)
- 子どもの成長やのびを保護者に口頭、お手紙、ノートなどで教員からお知らせする。
- 放課後の園庭開放では、子どもがおひさまタイムで活動した内容を再現できるように環境設定をする。
- 放課後の園庭開放では、教員が関わらず、子どもと保護者が自由に活動にできるように支援する。
- 教員は子どもの観察を行い常に状況を把握する。
- 保護者が本目的の主旨を理解できるよう、あわせて次の取組を行う。
 1. 運動や栄養など子どもにとって望ましい生活習慣について講演を行う
 2. 保護者の体力測定と評価を行い、保護者自身の健康に対する意識改革を行う
 3. 簡単朝食レシピの作成と調理を行う